

ISSN 2434-9690

東アジア国際 言語研究

創刊号

東アジア国際言語学会
2020年1月

目次

ごあいさつ	鈴木康之 (i)
[特別寄稿]	
文の材料としての単語と連語	鈴木康之 (1)
名詞と使役動詞 (V-(サ)セル) からなる連語	早津恵美子 (5)
[対照研究]	
構造で作る派生空間詞	高橋弥守彦 (25)
日本語の「を格」、「から格」の空間名詞と自動詞との組合せに対応する台閩語の 連語との比較	施 淑恵 (36)
「ノニ」文と中国語“关联词”訳の対照研究	孫 宇雷 (51)
「習得」に関する動詞の語彙的意味の分析——日中の結果複合動詞を中心に——	蘇 丹 (61)
「のだ」文と焦点・強調的“是”字文との対照研究 — 対訳における 意味伝達と形式選択から—	曹 銀閣 (72)
「飛び+V」と“跳/飞+V”についての一考察	陳 雄洪 (82)
拡張意味単位からみた日中同形語の対照研究—「精神」を例として—	梁 鵬飛 (92)
[日本語研究]	
不可能形式による禁止表現	李 楠 (103)
コーパスに基づく類義語の意味分析の研究—「はがれる、むける」などを中心に—	李 響 (111)
日本語の存在文と所在文の置き換えに関する一考察	鄧 超群 (121)
新聞社説における譲歩表現に関する分析—その談話機能を中心に—	単 艾婷 (131)
日本語の「内の関係」連体修飾節のモダリティについての考察	張 静苑 (142)
類型論的にみる日本語の目的語名詞の定性	魯 美玲 (153)
『萬葉集』にみられるオノマトペ—AB型を中心に(その式)—	王 則堯 (164)
[中国語研究]	
中国語の仮定複文における前後節の関係標識について	新田小雨子 (174)
時量詞構文における焦点について	福本陽介 (184)
歴史的に見た離合詞—“请客”“生气”“见面”—	石井宏明 (195)
小説の地の文における“SV了O”文の成立条件	白石裕一 (205)
現代中国語の数量詞について	洪 安瀾 (218)
“把”構文における可能表現についての再考	小路口ゆみ (229)
位置移動の動詞“过”のスキーマについて	蘇 秋韵 (239)
二空間の質的対立から見た“过”の通過義について—「境界プロフィール」と 「場所プロフィール」に着目して—	佐々木俊雄 (250)
清末北京語動詞の実態—張廷彦『支那語動字用法』と『動字分類大全』に基づいて—	許 辰晨 (261)
2019年月例会発表記録	(272)
編集後記	(274)
執筆者一覧	(275)
英文目録	(276)

中国語の仮定条件文における前後節の関係標識について

— “如果” と主節の構文要素のコロケーションを中心に—

The Research on Relational Markers of the Proceeding and Following
Clauses in Chinese Hypothetical Complex Sentences
: Focusing on the Collocation of *ruguo* with Other Relational Markers

新田小雨子

Nitta Sayoko

提要 本文以《中日対訳コーパス》の中文作品和《北京大学中国语言学研究中心 CCL 现代汉语语料库》の例句为主要分析资料, 通过大量的例句针对汉语“假设复句”里最有代表性的关联词语“如果”与主句的一些词语如何搭配使用做了详细的分析和考察。本文从 4 个方面对“如果句”进行了考察, 主要着眼于主句的一些词语对分句和主句所起的关联作用。通过分析, 发现“如果句”主句除了“就・也・那么”等关联副词与“如果”搭配以外, 表示可能、许可的助动词“会・可以”, 表示愿望、意志的助动词“要”等也常常与“如果”搭配使用。除此之外, 当主句对从句假定的条件做出推断和判定时, 主句则不使用“就”, 而是使用“也许・一定+会・恐怕+会・也许+会”等与“如果”搭配。

キーワード: 仮定条件文 関連詞語 コロケーション “如果” 構文 主節構文要素

目次

1. はじめに
2. 言語データについて
3. “如果” と主節の構文要素とのコロケーション
4. まとめ
5. おわりに

1. はじめに

筆者は長年中国語教育に携わってきて、日本語母語話者中国語学習者に「仮定条件文」¹⁾を教える際に、「なぜこの文には“如果”と“就”をセットで使うのに、この文にはない

¹⁾ 刘月华 (2001 : 874) では「仮定条件文」について次のように定義している。“偏句提出一种假设, 正句说出在这种情况下会出现的结果”「従属節ではある仮定を提起し、主節でそのような状況によってある結果が生じるだろうと述べる」

のですか」といったような質問をよく受けた。中国語の「関連詞語」²⁾の使用はルールにあまり拘束されることがなく、従属節と主節の意味関係は「関連詞語」に頼らずに文の内容から読み取る場合が多々ある。しかし、学習者に「関連詞語」をセットで使用してもいいし、単独で使用してもよい。さらに使わなくてもよいと説明したら、無責任な回答になると思う。

(1) 如果他打我，我就打他。 (2) 他打我，我就打他。

(3) ?如果他打我，我打他。 (4) ?他打我，我打他。

例(1)は“如果P，就Q”³⁾型であり、前後節にそれぞれ「関連詞語」が用いられており、「仮定条件文」と判断できる。例(2)は“P，就Q”型であり、主節に接続機能を持つ「副詞」を使用することによって前後節の関係は一目瞭然である。しかし、主節に「関連詞語」が使用されていない例(3)は仮定段階の行為が行われる「Q」とその行為の理由となる「P」とのつながりが悪くなり、自然さに欠けている。例(4)は「関連詞語」が使用されていないため、前後節の意味関係が曖昧になってしまった。前述のように、中国語の「仮定条件文」の「関連詞語」のコロケーションはより複雑な様相を呈する。従って、本稿では“如果”が含まれる用例を収集し、“如果”は主節の「関連詞語」、他の構文要素とどのように関わっているかについて分析し検証を行う。さらに、分析結果を踏まえて、“如果”構文の「関連詞語」などのコロケーションをパターン化し、言語教育に応用できることを目指したい。

2. 言語データについて

本稿において《中日対訳コーパス》《北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库》(CCL)を用い、“如果”が含まれる用例を収集し、“如果”と主節の「関連詞語」や他の構文要素とのかかわり方を観察する。用例を挙げる際、対訳コーパスとCCLの他、筆者による作例の場合もある。CCLからの用例は《CCL》と表記する。《中日対訳コーパス》からの用例はそれぞれの作品名によって表記する。筆者による作例には特に表記しない。

3. “如果”と主節の構文要素とのコロケーション

“如果”は主節の構文要素とのコロケーションがバラエティーに富んでおり、中でも“如

²⁾ 「関連詞語」については、鈴木(1992: 61)では「関連作用を行う語句のことを指す。「関連詞語」は主として接続詞の「但是」,「如果」,「然而」など、副詞「又」「才」「就」等および一部の短語が当てられる。その働きは主に複文の前件・後件を接続し、その構造的関係を表すことである」と定義している。

³⁾ 邢福义(2002: 83)では、“如果 p, 就 q”について以下のように述べている。

“如果…就…”表示假设与结果的关系,是假设句的代表句式。(中略)所谓假设,实际是一种待实现的原因,因此,假设句也属于因果类复句。比较:

因为赶不上火车,我们改乘轮船。

如果赶不上火车,我们改乘轮船。

这两句, p q 之间都有因果关系,只不过前一例的因果关系是已实现的,而后一例的因果关系则是待实现的。

果P，就Q”構文は代表的なもので、また“如果P，那么Q”構文の使用も目立っている。本稿では、「関連詞語」がセットで用いられるものについても言及するが、主節に“如果”に呼応する「関連詞語」を用いないものに重点をおき、構文的特徴について検証していきたい。

3.1 “如果”と関連詞語のコロケーション

“如果P，就Q”構文は中国語の仮定条件文における代表的な構文形式であり、“如果”と“就”のコロケーションは、緊密であるため、すべての仮定条件文においてそれらのコロケーションが使用できると思われる傾向がある。実際には文脈の表現内容によって、“如果…就”のコロケーション以外のものを用いる場合もしばしばある。

- (5) **如果**我们盲从，**就只能**以讹传讹，错把黄铜当真金，或错把真金当黄铜。《人到中年》
私たちがそれに盲従していたら、誤りを次々に伝えて、真鍮を金、金を真鍮と見なすことになるだけだったわ。
- (6) **如果**办不到这点，**只好**以南房为正房，或将挨着院门的一溜北房作为正房，而改变进门以后的院落格局。《钟鼓楼》
もしそのようにできなければ、その北向きの部屋をそのまま正房とするか、あるいは表門と同じ並びの北側の建物を正房とし、門を入れてからの配置を変えるよりほかない。
- (7) 我觉得，**如果**他们开始只是想找件事寻开心，**那么**，现在他们已经在为这件事花费的时间感到恼火了，……《金光大道》
なにか憂さ晴らしの種を探しに来たなら、長引かせても彼らの気持ちはいよいよ硬くなるばかりだ。
- (8) **如果**我们真该牺牲，我们**也**不能为一个人牺牲，……《家》
もしあたしたちがほんとうに犠牲になるべきなら、一個人のために犠牲になることはできないわ。
- (9) **如果**我一定去，你**也**没办法。《青春之歌》
ああ、もし、ぼくがどうしてもいくといたら、おっかさんだって、どうしようもないんだぜ。
- (10) **如果**你不来，我**就**害怕。《轮椅上的梦》
あなたが来てくれなかったらって思うと、ほんとにこわい。
- (11) 告诉你，卢嘉川**如果**今夜被捕了，我**就**认为是你出卖了他！”《青春之歌》
「いっとくけどね、芦さんが、もし今夜つかまったら、あなたが売ったと思うわよ」
- (12) 第二个五万年开始了，瓶子里的魔鬼想，**如果**有人救了我，我**就**把全世界的宝石送给他。《活动变人形》
次の五万年が始まった時悪魔は、救ってくれた者には世界中の宝石をやろうと思う。

(13) **如果**她逃了出来, **他就**扑上去接应她。 《青春之歌》

もしかの女が逃げてきたら、かけよって行って迎えるつもりだった。

(5)(6)の用例は、それぞれ“如果”と“就只能”、“如果”と“只好”のコロケーションになっている。従属節には“如果”を用いて「現在・未来」を仮定し、主節で仮定された事態によって“只能”(そうするしかできない)、“只好”(そうせざるを得ない)といったような心理的色彩を帯びる表現を用いて、心理的に抵抗のある行動を行うしかないという結果を予測している。(7)は“如果”と“那么”⁴⁾のコロケーションになっており、“那么”に関して、姚(2008)では、前件の仮定に即して、ある結論が導き出されると述べている。“如果…那么”の組み合わせは“如果”構文によく見られる。(8)(9)は“如果”と“也”⁵⁾のコロケーションになっており、“也”にも前後節を接続する機能があり、関連副詞(接続機能をもつ副詞)のひとつである。(8)は従属節の主語は主節の主語と同様であり、前後節の関係をはっきりさせるため、“如果…也”のコロケーションが用いられている。(9)は前後節の主語も述語成分も異なっており、主節で“也”を用いることによって、前後節の関係が結びつけられている。(8)(9)については、従属節と主節の間に時間的継起関係がないため、“也”を“就”に置き換えられない。(10)(11)(12)(13)は典型的な仮定条件文の構文形式“如果…就”のコロケーションが用いられている。これらの文の前後節を観察すると、(10)(11)は従属節で仮定されたことに基づき、主節である心理的変化が予測されている。(12)(13)は従属節で仮定されることに基づき、主節である行為が行われることが予測されている。これらの文は従属節が主節の仮定段階の変化の原因または行動の理由になっており、前後節の論理関係を強める機能を持ちつつ、時間的継起関係も表す“就”の使用が最も適切であると言える。

3.2 “如果”と推量系副詞のコロケーション

“如果”構文の主節は推測、判断、意志、願望などの心的態度を表す場合、“如果P、就Q”構文になりにくい。主節に“也许・准”などの推測判断を表す語気副詞または“一定+会・

⁴⁾ 姚双云(2008:99)では“那么”について次のように述べている

“那么”表示顺着前面的假设推导出相应的结论,用来联结假设句的结果部分。前面常常需要有“如果”“假如”之类的标记与之搭配使用,主要搭配格式有“如果/假如/假设…那么”等。

王起澜等(1989:84-85)では“那・那么”について以下のように述べている。

那 nà [连词]相当于“那么”(中略)。表示假设的结果时,“那”常与上文的“如果・要是”等搭配使用。“那”还可以与“既然”搭配表示推论因果关系。

那末 nàme [连词]是“那么”的另一种写法。例如:①如果只是口头上讲联系,行动上又不实行联系,那末讲一百年也还是无益的。(毛泽东《整顿党的作风》)

⁵⁾ 王起澜等(1989:150)では“也”について次のように述べている。

“也”的用法广泛多样。作为一个关联词,它可以连接分句、句子、以至段落,还可以连接紧缩句中的前后两部分。它可以同其他关联词配对使用,详见有关条目,也可以单用,如本条各例,还可以叠用,但它不能用在主语前面。“也”所表示的关系是多种多样的:它同前面分句(句子、段落)的“既、不但、宁愿、虽然、如果、即使、因为、无论”等类关联词配对时,可以表示并列、递进、选择、转折、假设、让步转折的假设、因果、排除条件等各种关系,这是很明显的。

“恐怕+会・一定+要・也许+会”のような語気副詞と蓋然性や必要性を表す助動詞を併用させたものが多く用いられている。

- (14) “**如果**她勇敢些, **也许**她会把校长胸前的牌子摘下来摔个粉碎, …” 《轮椅上的梦》
もう少し彼女に勇気があったら、校長の首から看板をおろして地面に叩きつけ、踏みにじったかも知れない。
- (15) “**如果**乐二叔今天上阵, **准**能露一手……” 《金光大道》
楽二叔が頭役なら、いいとこみせられるのに
- (16) “**如果**我现在站在你面前, 你**一定**会惊讶地瞪大了眼睛, …” 《轮椅上的梦》
「もし今のぼくが君の前に立ったら、きっと君は、びっくりするぜ。」
- (17) “**如果**我像大哥那样服从, **恐怕**会永远关在家里, …” 《家》
「もしも大哥みたいに服従してたら、永遠に家に閉じ籠められるところだった。」
- (18) 我知道**如果**剩下大半碗来, **一定**要使她很失望, 而且很抱歉。 《彷徨》
もし僕が半分以上も残したら、彼女はきつとがっかりもするし、すまながりもするにちがいない。
- (19) **如果**是一个上级这样对我说话, 我**也许**会认真地考虑考虑。 《人啊, 人》
もし上級のだれかがそう言ったのなら、わしも真面目に受け止めたかもしれない。
- (20) **如果**他死了, 我的心里**也许**会好受一点。 《人到中年》
これであの人が死んだら、気がすむかもしれない。
- (21) **如果**及时治疗, **也许**还能使我的双腿恢复功能, 《轮椅上的梦》
すぐに治療すれば、あるいは両足の機能を回復できるかもしれない。
- (22) **如果**你们一定要用武力, 同学们也**绝**不会屈服! 《青春之歌》
そっちがどうしても武力を行使するというなら、こっちだって、断じて屈服しない!

(14) (15) (16) (17) (19) は反事実仮定条件文である。(14) は“如果P, 也许S会Q”(「S」は主語を表す) になっており、主節に推測を表す“也许”と蓋然性を表す助動詞“会”が使用されている。従属節は現在の事実と反する仮定であり、つまり、事実とは「彼女には勇気がなかった」ということになる。(15) の“如果P, 准Q”は従属節が現在の事実と反する仮定になっており、「楽二叔が頭役ではなかった」が事実である。(16) も従属節は現在の事実と反する仮定であり、主節でそれによって推測判断がされている。(17) は過去の事実と反する仮定であり、「大哥みたいに服従しなかったから、永遠に家に閉じ込められなかった」というのが事実である。(18) の従属節は未来の仮定であり、それに基づいてある状態の発生が推測判断されている。この文の従属節には副詞の“一定”と助動詞“要”が用いられており、文脈を見れば“要”はこの文においては本来の意志と願望を表す機能を失い、蓋然性を表す助動詞“会”と置き換えても文の自然さを損なわず、“会”と同様な役割を担っていると考えられ

る。(19)の従属節は過去の事実と反する仮定であり、それに基づいて主節で現在の推断がされている。(20)は従属節で現在・未来の状態を仮定し、主節でそれに基づき、ある状態の発生を推測判断している。(21)は従属節で現在・未来を仮定し、主節でそれに基づいてある状態の発生が推断されている。(22)は従属節で現在・未来を仮定し、主節で副詞の“絶”を用いて、強い意志表明がされている。

3.3 “如果”と助動詞のコロケーション

“如果”構文において、主節にある助動詞の“该・会・可以・可・要”などは“如果”と併用するケースも少なくない。これらの文も“如果…就”構文になりにくい傾向がある。

- (23) “爸爸，如果你知道我把你从照片上剪掉，该会多么伤心啊！” 《轮椅上的梦》
「パパ、あたしがパパの写真を切り落としたって知ったら、きっととても悲しむよね!」
- (24) 如果救不出黎江，那些人会把他怎么样呢？ 《轮椅上的梦》
救い出せなければ、その人たちは黎江をどんな目に合わすだろう？
- (25) 你如果钱不够，我们可以负担。 《钟鼓楼》
もし金が足りなければ、こっちで立てかえてあげてもよい。
- (26) “……如果我现在是二十几岁的青年，我要立刻投笔从戎，雪此国耻!” 《青春之歌》
「……もしも、このわたしが二十数歳の青年だったなら、わたしはすぐにペンを棄てて銃をとり、この国辱をそそいだであらうに!」
- (27) 如果没有实际事物，可利用代替物。 《CCL》
実物がなかったら、代替物を利用していい。
- (28) “那很好，小林同志，如果我能够多活几天，我要尽力帮助你。 《青春之歌》
「それは、とてもいいことよ、林同志、わたしが、もうしばらくでも、生きていられるようだったら、できるだけ、あなたに手を貸すわ。」
- (29) 如果能够破镜重圆，我会多么珍惜这一面镜子啊！ 《人到中年》
もし、よりを戻せるものなら、おれはそれをなによりも大事にするだろう…
- (30) 如果不及时给以帮助，他不知道要滑到什么地方去呢？ 《人到中年》
もし時を移さず救いの手を延べなければ、どこまで行ってしまいかもかもしれません。
- (31) 如果出版社也因此不敢出书了，我要向上级党委进行申诉。 《人到中年》
出版社がこのために本を出せない事態になったら、その時は上級の党組織に訴えることになるだろう。
- (32) 县校如果愿意长期租借，公司可以订十年的合同。 《上海的早晨》
そのうえ、学校が長期の借用を認めてくれるなら、十年期限の契約を結んでもよいと、くどいほどいったのですよ。

(23) (24) (29) (30)はそれぞれ助動詞の“该会・会・要”が用いられるのに加えて、文末に

語気助詞の“啊・呢”も用いられており、文末に「？」と「！」が使用されている。また(23)(29)主節には感嘆を表す副詞“多么”も使用されており、(24)の主節は疑問文になっている。

(23)は事実になったことを仮定とし、それによって第三者の心情を推測している。(24)は従属節で状態を予測し、主節で結果状態を聞き手に問うという構文になっている。(29)は従属節である結果を予測し、それによって主節で話者自身の心情を推測している。(30)は主節に助動詞の“要”と語気助詞の“呢”が併用され、結果の如何について推測している。このような文においては、“如果…就”構文の使用は不可能である。つまり、主節で“就”の使用が許容されないということである。(25)(27)(32)は許可を表す助動詞の“可以・可”が使用されており、“如果P, 可/可以Q”になっている。従属節のある状態を仮定し、主節である許可を与える。(26)(28)(31)はそれぞれ主節で助動詞“要”が使用され、第一人称の主語“我”自身の強い意志と願望が呈されている。この三つの例の主節に注目すれば、三例とも従属節である状況を仮定し、主節でそれによってある意志行動を起こそうとしている。このような文においては、主節の“要”を“就”に置き換えるのも可能だが、ニュアンスが変わってしまう。例えば、

(26’) “……如果我现在是二十几岁的青年, 我就立刻投笔从戎, 雪此国耻!”

主節に“要”を使用する場合、表現意図は意志と願望に重点が置かれているが、“就”を使用する場合、その行動に重点が置かれている。

“如果…可/可以”構文も従属節のある仮定段階の条件によって、主節である行動を起こそうとする場合、“可/可以”は“就”に置き換えられるが、“就”に置き換えると、表現意図は許可に重点が置かれるのではなく、ある行動が行われることに重点が置かれることになる。

(32’) 县校如果愿意长期租借, 公司就订十年的合同。

従って、表現意図によって“如果”と“就”をセットで用いることを避け、従属節の“如果”と主節の意志願望を表す助動詞“要”や許可を表す助動詞の“可/可以”の併用が求められる。

3.4 “如果”と指示詞のコロケーション

“如果”構文においては、“如果”と主節にある指示詞のコロケーションも見られる。この種類の文において、特に指示表現の“那”を用いる文は、関連詞語の“那, 那么”の使用と区別しにくい。関連詞語の“那, 那么”はよく従属節の“如果”と併用されるが、指示表現の“那”は今回のデータでは数例しか見当たらなかった。

(33) 如果这一步也值得骄傲, 那是比较渺小的, 更值得骄傲的还在后头。《金光大道》
たとえこの一步が誇るべきものだとしても、それはむしろとるにたりないもので、
もっと誇るべきものはこれからさきにある。

(34) 如果能够见到长征的勇士和英勇无敌的红军, 那, 那该是多么幸福啊!《青春之歌》

- もしも長征の勇士たちや、勇敢で無敵の赤軍に会えたなら、ど、どんなに幸福だろう！
- (35) **如果**他们不给我们民主，**那**正是他们自己打了自己的嘴巴子。 《青春之歌》
 もしも奴らが、ぼくたちに民主をあたえないのなら、それこそ、じぶんでじぶんの
 頬をなぐるようなものだ。
- (36) **如果**我们连荀磊也不要，**那**可真是没有天理良心了！” 《钟鼓楼》
 「かりに荀磊まではじきだしたとしたら、それこそ良心のかけらさえ失ったことにな
 るだろう」

(33) (34) (35) (36)は主節でそれぞれ指示表現の“那”が用いられている。指示表現“那”はこれらの文においては、前後節を結びつける役割を果たしていることを否めない。ここで挙げられた主節にある“那”は指示表現であることを証明するため、まず“那”の後ろに来る文成分に注目する。“那”の後ろに“是”が現れると、間違いなく指示表現の“那”になる。“如果…那”構文の主節を観察すれば、主節の表現内容は主観的な評価と判断を表す表現が多く使用されていることが判る。また、“那”は感嘆を表す副詞の“多么”語気助詞の“啊”と併用して、話者の未来の心情を推測している。これらの文では、主節に主観的な評価表現または話者の未来の心理変化を推測する表現が使用され、“如果”と“就”の併用が不可能である。

4. まとめ

3.1~3.4で“如果”構文を「“如果”と関連詞語のコロケーション」「“如果”と推量系副詞のコロケーション」「“如果”と助動詞のコロケーション」「“如果”と指示詞のコロケーション」の四種類に分類すると同時に、主節に着目し、実例を通してそれぞれのコロケーションの特徴について検討を行った。結果的には、“如果…就”は仮定条件文の代表的な構文形式であるが、あらゆる文において、主節で“就”を使用できるわけではなく、主節の表現内容によって、“就”の使用が許容されないケースが多く見られる。そのような現象は主に主節が推測、判断、意志、願望などの心的態度を表す場合、または主節に助動詞や指示詞が使用されつつ、さらに感嘆を表す副詞、語気助詞も併用される場合に多く見られることが分かった。また、従属節で仮定されたある条件によって、主節である行動を起こそうとする場合、“如果P，就Q”構文の使用環境が整っていても、表現意図によって“如果P，就Q”構文を回避し、従属節の“如果”は主節の意志、願望を表す助動詞の“要”を併用することも、主節の許可を表す表現の“可/可以”を併用することも求められる。

場合によっては、“如果P，就Q”構文形式ではなく、“如果”と他の関連詞語のコロケーションが求められることもある。例えば、“如果P，那么Q”、“如果P，只好Q”、“如果P，也Q”などである。“如果P，就Q”構文の使用に最も適する環境は、3.1で述べたように、従属節で仮定されたことに基づき、主節である心理的变化が予測される場合、主節で

ある行為が行われることが予測される場合だと考えられる。これらの文は従属節が主節の仮定段階の変化の原因または行動の理由になっており、前後節の論理関係を強める機能を持ちつつ、時間的継起関係も表す“就”の使用が最も適切だと言える。

“如果”と主節の構文要素とのコロケーション及び文の特徴

文の種類	コロケーション	特徴
“如果”と関連詞語のコロケーション	・ 如果…就	・ 従属節が主節の仮定段階の変化の原因または行動の理由になっている。
	・ 如果…那么	・ 前件の仮定に即して、ある結論が導き出されるように述べている。
	・ 如果…只好/只能	・ 主節で仮定された事態によって心理的に抵抗のある行動を行うしかないという結果を予測する。
	・ 如果…也	・ 従属節と主節の間に時間的継起関係がない場合、“也”を“就”に置き換えられない。
“如果”と推量系の副詞のコロケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 如果…也许 ・ 如果…一定+会 ・ 如果…恐怕+会 ・ 如果…一定+要 ・ 如果…也许+会 ・ 如果…准 ・ 如果…绝 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主節は推測、判断、意志、願望などの心的態度を表す場合、“如果P，就Q”構文になりにくい。 ・ 従属節は未来の仮定であり、それに基づいて、ある状態の発生が推測判断される。 ・ 従属節は過去の事実と反する仮定であり、それに基づいて主節で現在の推断がされる。 ・ 従属節で現在・未来の状態を仮定し、主節でそれに基づくある状態の発生を推断する。 ・ 従属節で現在・未来を仮定し、主節で強い意志表明がされる。
“如果”と助動詞のコロケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 如果…该会 ・ 如果…会 ・ 如果…可/可以 ・ 如果…要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実になったことを仮定とし、それによって第三者の心情を推測する。 ・ 従属節で状態を予測し、主節で結果状態を聞き手に問う。 ・ 従属節である結果を予測し、それによって主節で話者自身の心情を推測する。 ・ 主節に助動詞の“要”と語気助詞の“呢”が併用され、結果がどうなるかについて推測する。 ・ 従属節のある状態を仮定し、主節である許可を与える。 ・ 主節で助動詞“要”が使用され、第一人称の主語“我”自身の強い意志と願望が呈される。 ・ 従属節のある仮定段階の条件によって、主節である行動を起こそうとする場合、助動詞の“要”“可/可以”は“就”に置き換えられるが、ニュアンスが変わってしまう。強い意志・願望、許可を表したい場合、“就”の使用を回避することが必要。
“如果”と指示詞のコロケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 如果…那 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “那”の後ろに“是”が現れると、間違いなく指示表現の“那”になる。 ・ 主節の表現内容は主観的な評価と判断を表す表現が多く使用される。 ・ 主節に主観的な評価表現または話者の未来の心理変化を推測する表現が使用され、“如果”と“就”の併用が不可能である。

5. おわりに

本稿では、“如果”構文の“如果”と主節の構文要素のコロケーションについて見てきたが、対訳を重視したため、取り上げた用例はほとんど《日中対訳コーパス》の用例であった。データ上は偏りがあることが否めないが、仮定条件文における“就”の使用範囲や主節の諸構文要素と“如果”の関わりについてその一端を明らかにしたと言えよう。この研究を通して、

仮定を表す“如果”と“就”との組み合わせはいかなる言語環境でも成立するわけではないということが証明できた。教材の作成においても、教育現場においても、仮定条件文を導入する際に、“如果…就”構文形式が強くインプットされないように、それらのコロケーションについて補足的な説明が必要だと思う。“如果”と“就”がセットで使えるか否かに関しては、主節の構文要素と大きな関わりがあり、例えば主節に心的態度を表す表現や助動詞または指示詞が現れる場合、“如果…就”構文形式が成立しにくいということを学習者に認識させることも肝要であると考えられる。更に“如果P，就Q”構文形式の使用環境が整っていても、強い意志、願望や許可を表す意図が強い場合、“如果P，就Q”構文の使用を回避する必要があることも学習者に伝えておくことも大事だと思う。今後更にデータを収集し、より詳しく分類して検討を重ねていく所存である。

参考文献

- 下地早智子(2004)「中国語の条件表現」『神戸外大論叢』55巻1号，pp. 53-69.
- 鈴木義昭（1992）「現代中国語の「関連詞語」について」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要4』，pp. 60-79.
- 鳥井克之（2004）「再論 中国語の複文について—新しい中国語教学文法の再構築を目指して—」『関西大学外国語教育研究』8号，pp. 75-97.
- 高 名 凱（1986）《汉语语法论》 商务印书馆
- 胡 裕 树（1989）《现代汉语》 上海人民出版社
- 黎 锦 熙（1957）《新著国语文法》 商务印书馆
- 刘 月 华（2001）《实用现代汉语语法》 商务印书馆，pp. 874.
- 陆 庆 和（2006）《实用对外汉语教学语法》 北京大学出版社
- 吕 叔 湘（1999）《现代汉语八百词》 商务印书馆
- 邵 敬 敏（2001）《汉语语法的立体研究》 商务印书馆
- 王 力（1985）《中国现代语法》 商务印书馆
- 王维贤等(1994)《现代汉语复句新解》 华东师范大学出版社
- 王起澜等(1989)《汉语关联词词典》 福建人民出版社，pp. 84-85、pp. 150.
- 邢 福 义（2002）《汉语复句研究》 商務印書館，pp. 83.
- 姚 双 云（2008）《复句关联标记的搭配研究》 华中师范大学出版社，pp. 99.
- 张 谊 生（2000）《现代汉语副词研究》 上海学林出版社
- 张 斌 等（2000）《现代汉语虚词》 华东师范大学出版社